

# 30 大内義興

幕府の実権を握った  
西国一の大名

1477~1528

官位 従三位 左京大夫

菩提寺 凌雲寺（廃寺）

墓所 凌雲寺跡付近（中尾）

## 明応の政変と五社詣で

将軍足利義植（義材、義尹）の六角氏征伐に父政弘の代理として参陣した義興は、河内（大阪府南東部）での畠山基家討伐にも引き続き従軍しますが、京都で管領細川政元が足利義澄を新将軍に擁立するクーデターが発生しま



大内義興像（龍福寺）

す（明応の政変）。応仁の乱で政弘が義植の父義視を西幕府将軍として支えた経緯もあり、義興はどちらにもつかず、まもなく山口に帰りました。

領国では、周防国守護代を世襲とする陶家で、弘護の子武護が家督を継承した弟興明を討ち、武護に味方した長門国守護代内藤弘矩を政弘が屋敷で殺害するなど、不穏な事件が起こります。重臣たちの死により、家督を継いだ義興は政弘没後、主導権を手に入れました。

京を追われた義植が義興や大友氏ら諸大名に協力を求めると、中央の動向が波及するようになります。豊後の大友政親が義植を支持する息子義右（政弘の妹の子）を毒殺し、大内氏領国豊前・筑前を奪い取ろうとしますが、義興に捕えられ切腹。一方筑前に少武政資が侵攻、赤間関に出陣した義興は大軍で攻め、敗れた政資は自刃しました。さらに杉武明が興隆寺別当尊光（義興の兄弟・高弘）の擁立を企て発覚、武明は自害し尊光は豊後の大友氏のもとへ逃れました。これらの動きは、義興の上洛を警戒する政元の策略によるものだったようです。義興は戦陣から帰国し周防国五社を参詣、神馬を寄進しました。

## 前将軍の山口下向

越中・越前などを流浪した義植は、義興を頼っ

て山口へ下向しました。大内館では、前将軍をもてなし中世最大級の宴が催されました。主殿での式三献に始まり、会所で饗宴が行われ14時間に及び、献立記録によると32のお膳、110以上の料理が出されました。

朝敵として義興討伐が命じられ、

豊前に侵攻した大友・少武連合軍との合戦が行わ



大内御膳（山口観光コンベンション協会所蔵）義興が前将軍をもてなした料理を再現、湯田温泉のホテル・旅館で堪能できる

れた後、義植の仲介により大友氏との間で和睦が成立します。

義植は毎日家臣を今八幡宮に参らせ、将軍復帰を祈願したと伝えられます。

## 義植将軍復帰と船岡山合戦

義興が義植の将軍復帰に向けた上洛準備を進めていたところ、細川政元が家臣により暗殺され、細川家の内紛が起こります。思わぬ好機に義興は義植を奉じて入京、義植は将軍に返り咲きました。義植方の細川高国（政元の養子）は管領に、義興は山城国守護に任じられ、連合政権が樹立されました。義興は帰国の意思を示しつつ、幕府・朝廷からの慰留を受け京にとどまります。宿所は六角



六角油小路（京都市）

油小路にあり、「本能寺の変」で炎上した本能寺跡付近と思われる、剣豪塚原ト伝が食客となっていたとも伝わります。

幕政を支えながら、猿楽や犬追物の主催、賀茂

競馬の見物を行う一方で、大内軍の滞在費や慣れない京暮らしでの<sup>いさか</sup>の<sup>いさか</sup>問題にも直面します。

義澄方の細川<sup>まさかた</sup>政賢らの軍勢が和泉・摂津へと進撃し京に迫り、義植は高国・義興らと一旦丹波国へ逃れます。義澄勢の入京後、高国は北山に、義



船岡山 (京都市)

興は長坂口に陣をおき、政賢は船岡山に布陣しました。義植方兵力1万5、6千人のうち約半数は大内勢とみられ、幕府の軍事力の中核を担

っていたことが窺えます。義植方が勝利し、多大な貢献をした義興は従三位に叙任され、大内氏として初めて公<sup>くぎょう</sup>卿の仲間入りをしました。

## 伊勢神宮勸請と安芸の攻防

安芸・石見の国人が勝手に先に帰国したり、高国・義興への不満から義植が一時的に近江へ出奔するという事件を経て、永代の遣明船経営権を認められた後、10年にわたる在京を終え帰国しました。義興が去ると間もなく政情は動揺し、義植は再び将軍の座を追われます。

帰国した義興は直ちに宮地を選定し、鴻ノ峰の麓に高嶺太神宮（現山口大神宮）を建立しました。明治以前に、天皇の許しを得て伊勢神宮か



山口大神宮 (滝町)

ら分霊をうけ、内宮・外宮を勸請した、伊勢に記録が残る唯一の神社といわれます。



凌雲寺跡 (中尾)



大内義興の墓

1493	明応の政変
1495	父政弘、病死
1497	周防五社詣で
1499	足利義植、山口下向
1500	義興邸へ義植御成
1503	今八幡宮社殿造営
1504	興隆寺釈迦如来坐像制作
1507	細川政元暗殺
1508	義植を奉じて上洛
1510	三浦の乱
1511	船岡山合戦
1518	周防国山口へ帰還
1520	伊勢神宮を山口に勸請、祇園社移転
1521	興隆寺本堂上棟
1523	寧波の乱
1528	山口で病死 (52 歳)

留守中に出雲の尼子<sup>あまごつねひさ</sup>経久や安芸の武田氏が勢力を増しており、義興はたびたび安芸で尼子氏らと合戦、大内氏の拠点東西条の鏡山城が陥落し、安芸の国人の多くは一時尼子方につきました。大内勢の反撃が進められ義興は息子義隆とともに出陣、友田氏、毛利元就ら安芸国人は大内方に転じます。陶興<sup>おきふさ</sup>房が諸戦で勝利を収めるなど大内軍優勢のなか、門<sup>かど</sup>山城（廿日市市）の陣中で義興は病に倒れ山口で死去、安芸攻略は挫折します。

## 温湯山龍泉寺縁起

義植の山口滞在中、義興が築山屋形で宴を催した際、にわかひじが痺れ苦しみます。老僧が現れ香水を義興のひじに振り掛けると、たちまち回復しました。老僧は「私は温湯龍泉の地に住む者」といって姿を消しました。朝倉に煙霧が立ち上る老松があり、そばの温かい池を掘らせたところ温泉が湧き出て、ここに龍泉寺を建立したと伝えられます。